

高島屋労働組合の社会的責任 (Union Social Responsibility)

今「地球市民」として、社会や自治体、企業、NPO、NGO、そして労働組合などのすべての組織、個人レベルにおいても、人類社会が分岐点に立っていることを認識し、永続的に人間の尊厳を守りうる地球を創造していくために「社会の持続可能性」という課題に対して、いかに向き合い取り組むかということが強く求められています。社会の一員である各組織は、地球規模での社会的課題に加え、少子化やそれに伴う「仕事と生活の調和」、「女性の社会進出」、「多様な働き方」など現代の日本においてクローズアップされている課題に対して、社会的責任を果たすこと、つまり、社会の持続的な発展を担保しつつ、いかに自らの成長を果たしていくかが強く問われています。言い換えれば、各組織はこのような問いに応えていくことによって、社会からの信頼を得ることが可能になり、その結果、社会とともに持続可能なものになっていくものと考えます。

そのような中において、社会の一員、そして企業の構成員として労働組合にも大きな社会的責任があります。高島屋労働組合は、社会・経済のグローバル化が進展する中、これまでのような企業に対する要求主体としての活動だけでは、存在意義そのものが問われかねないとの問題認識を持ち、主体的に労働組合自らも社会的責任に向き合うための取り組みとしてUSR(労働組合の社会的責任=Union Social Responsibility)政策を策定し、時代感ある労働組合活動の柱の一つとして推進していきます。

USR 政策は、社会の安定のためには生活の安定が、生活の安定のためには労働の安定が必須であり、労働の安定のためには、労働組合としての社会的責任・役割の発揮がますます重要であるとの考えのもと策定しています。その柱となる役割として「本質的役割」「倫理的役割」「今日的役割」があるものと考えています。

「本質的役割」とは、労働組合は組織運営の「民主制」と組合員の「納得性」を活動の基盤とし、第一義に企業内労使関係において組合員の雇用・労働条件の維持・向上や権利保護・人事取り扱いなどを含む総合的な経営へのチェック機能など「本質的役割」を果たしていく存在であるということです。一方、前述の環境の変化の中、現代の日本においてクローズアップされている社会的課題や社会の持続可能性という課題に対し、人間尊重をベースとした「倫理的役割」や、社会との関わりをより強く意識した「今日的役割」を発揮していくことが強く求められているものと考えます。労働組合が自主的に「社会的責任」に向き合う大きな目的は、社会における役割をより一層果たしていくことにあり、そのことが社会における存在価値の発揮、ひいては社会の持続的な発展にもつながっていくものと考えています。

高島屋労働組合の捉える「労働組合の社会的責任」基本テーマ

1. 個人の人権・尊厳を重視した労働運動の実践

- ・労働法の精神に基づき、職場における基本的人権を守る取り組み
- ・公正・公平な福祉・労働条件の整備
- ・個人を守る視点を重視した労働運動の実践

2. CSR経営推進における重要なステークホルダーとしての労働組合としての役割を果たす

- ・労働組合としてのモニタリング機能の発揮
- ・従業員重視の「人間尊重」の経営理念の追求

3. 地球市民としての役割・機能の発揮

- ・企業人の枠組みを超えた「人間」としての存在意義の追及
- ・循環社会の創造「地域との共生」など

4. 新たな時代の労使関係のあり方を追及

- ・労使がヴィジョンを共有し、協力してガバナンスの変革に取り組む
- ・生産性3原則(雇用の安定・確保、労使協議の原則、公正な配分)の堅持
- ・「魅力ある産業づくり」「業界の社会的地位向上」に向けた強固な産業別労使関係の構築